



企画展

事前のお知らせ

「未知の花を求めて-牧野富太郎が命名した希少な植物-」 を開催!

と き 11月15日(土)～12月28日(日) 午前9時30分～午後4時30分
火曜休館(12月23日(火・祝)は開館し、翌24日(水)は休館)

と ころ 牧野記念庭園記念館(東大泉6-34-4庭園内) 入場無料

世界的な植物学者で、練馬区に居を構え「日本の植物学の父」と呼ばれた牧野富太郎博士の住居跡を整備した区立牧野記念庭園で、「未知の花を求めて-牧野富太郎が命名した希少な植物-」と題された企画展を、15日(土)から開催する。

牧野富太郎はヤマトグサをはじめとして、多くの植物に学名を与え発表している。そこで、企画展では富太郎がどのような植物と出会い、興味を持ち、学名を付けたかを紹介する。「アオテンナンショウ」「ノジギク」などの、日本植物画倶楽部会員が描いた植物画(28点)を展示する。



上【牧野すぐり筆 アオテンナンショウ】



また、期間中の12月上旬から中旬にかけて、同庭園内では博士が命名したヘラノキや、モミジなどの紅葉が見頃を迎える。その他、11月下旬からは椿の一種であるハツカリも、美しい花を咲かせる。美しく色づいた木々を見ながら、博士が愛した武蔵野の面影を感じることができる。

左【庭園内の紅葉の様子(イメージ)】

【牧野記念庭園の紹介】

牧野富太郎博士が大正15年から94歳で亡くなる昭和32年まで居住し、自らが採取してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。

博士の死後、この植物学ゆかりの聖地を広く一般に開放し、博士の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が昭和33年に開園した。園内には300種類以上の草木類が植栽されており、スエコザサ、センダイヤ(サクラ)、ヘラノキなど、大変珍しく学問的に貴重な植物も多数見ることができる。

交通案内：西武池袋線「大泉学園駅」南口下車 徒歩5分

開園時間：午前9時～午後5時 / 入場無料

休 園 日：火曜日および年末年始

(火曜日が祝休日にあたる場合は開園、その直後の祝休日でない日を休園)

チラシに掲載されている講演会「牧野記念庭園と牧野富太郎記念館」、講座「ボタニカルアート講座」については、申込受付が終了しました。

【問い合わせ】環境部 みどり推進課 花とみどりの相談所 電話03-3976-9402